

## 献 辞

去る3月31日、加藤宗登教授は、定年を1年余して本学を勇退された。教授は、本学の前身である広島商科大学創立後間もない1965年に本学に赴任され、以来35年の長きにわたって本学を愛しその発展とともに歩んで来られた。フランス文学研究者らしいエスプリに富んだ話し方や奥深く温厚な人柄は、われわれの心に鮮やかな印象として残っている。

教授は、19世紀の小説家ネルヴァル等に関する数々の独創的な論文を著されるとともに、「日本フランス語フランス文学会」幹事、同学会中国・四国支部長を務められ、学界の重鎮としてフランス文学フランス語の発展に尽くしてこられた。

また、広島修道大学発足後の困難な時期に、人文学部長、就職部長としてそれぞれ2期にわたって重責を果たされ、本学の発展に多大な貢献をされた。言わば本学にとって、創立以来の「父親」の一人であった。本学が今再び変動の時代に乗り出すにあたり、教授の人間味と見識と誠実さには、誠に惜しむべきものがある。

名誉教授として本学を去られた後も、加藤教授の爾後が、さらなるご健康と、教授のシャンソンに伺われる生きる愉しみに満ちたものとなることを祈ってやまない。

2000年4月

人文学部長 神谷 正太郎